

親子で種まき 転作田をコスモス畑に

～甲賀町神区水土里守り隊～

甲 賀町神区の転作田で7月25日、コスモスの種まきが行われました。同区水土里守り隊が実施したもので、3年目の今年は、里山がむら交流館前の転作田3ヘクタールが一面のコスモス畑になる予定です。

今回は、毎年花の咲くころに散歩に訪れている大原に「ここの園の園児も招待し、区民親子やボランティアも合わせて約70名が参加しました。バケツに種を分けてもらった親子は田んぼに入り、「きれいな花が咲きますように」と声をかけながら種をまきました。

11月上旬には、白やピンクなど満開になったコスモスが見られることでしょう。



▲親子でコスモスの種まきを体験

感謝を込めて 芝生を植え付け

～NPO法人スポーツクラブ「カスティージョ水口」～

N PO法人スポーツクラブ「カスティージョ水口」のクラブ員らが7月19日、水口スポーツの森で芝生の植え付け作業に汗を流しました。

市内の公園や小中学校のグラウンドなど公共施設を利用してサッカーの練習に励む同クラブが日頃の感謝を込めてボランティアで実施したもので、クラブ員と保護者約100名が参加。グラウンドを芝生化する日本サッカー協会グリーンプロジェクトにより提供されたポット芝を、ふれあい広場の遊具周辺約1,000㎡に植え付けました。根がつくまでの間の水やりもクラブ員らにより行われます。



▲ボランティアで芝生を植え付けるクラブ員親子

作った粘土が動き出す クレイアニメに感動

～体験・ねんどが動くアニメをつくる～

子 どもにとってなじみの深い遊び道具である粘土。この粘土を使ったクレイアニメ作りが7月25日、あいこうか市民ホールで開催されました。

クレイアニメは、粘土でキャラクターを作り、少しずつ変形させたり動かしたりしながらカメラで数枚の画像を撮影し、パソコンで連続表示させて制作するアニメーション。参加した46名の小学生は10グループに分かれ、まずストーリーを構想、キャラクターや背景を作ると、繰り返しカメラで撮影し、数十秒のアニメに仕上げました。

作品発表では、自分たちの作った粘土が動き出す様子に感動し、1日かかるとの作業の疲れも吹き飛ばすようです。



▲カラフルな粘土でキャラクター作りを楽しむ参加者

フランスの大学生が来校 クラブ活動も体験

～水口東高校～

フ ランス人大学生6名が7月4日から31日まで市内でホームステイして市民と交流を深めました。

海外音楽家の公演を行う甲賀国際交流音楽会実行委員会の受け入れ事業の一環で、大学生は滞在中、日本語を学びながら、地域の祭りに参加するなどして日本の文化にふれました。

7月20日には、水口東高校を訪問し、英会話クラブの部員と懇談。大学生は高校時代から日本語を学んでいるとあって、流ちょうな日本語で

部員と会話し、日本のアニメや学校生活などの話題で盛り上がりました。クラブ活動も見学し、書道部では毛筆で習字も体験しました。



▲書道部を見学するフランスの大学生

市の玄関を花いっぱい

～ボランティアで花壇植え付け～

市 役所水口庁舎前の花壇にたくさんの花が植えられ、来庁者や通りがかりの人を楽しませています。

これらの花は、市内の花好きの皆さんが種から育てた苗を持ち寄られたもので、先月、市内の女性がボランティアで植え付けをされました。この花壇は趣味を生かさせてもらえる場所。不ぞろいですが、一株ずつでも持ち寄って市民みんなの花壇になればうれしい」と、その後も毎日、朝夕の水やりや草引きなどの世話をされています。

マリーゴールドやペゴニア、チェリーセージなど色とりどりの花が、夏の日を浴びて美しく咲き誇っています。



▲美しい花でいっぱいになった市役所前花壇

ろうそくを灯し 環境やいのちを考える

～キャンドルライトコンサート～

水 口中部コミュニティセンターで7月19日、キャンドルライトコンサートが行われ、歌手砂川恵理歌さんがふるさと沖繩の歌などを優しく歌い上げました。砂川さんは、あるがん患者が残した最後の言葉を詩にして出来上がった曲「一粒の種」を歌い続ける出前ライブを各地で開催しています。

会場には、ボランティアグループ「甲賀エコらく会」により廃食用油から作られたエコキャンドルが灯されました。暑さも和らいだ夕暮れのととき、語りかけるような歌声と優しいろうそくの光に包まれ、参加者は環境やいのちの大切さを考えました。



▲いのちのうたをやさしく歌う砂川恵理歌さん